

平成30年度人権啓発講演会・ふれ愛講座（ファミリー劇団「侍」）講演概要

新宮市では平成31年3月17日、蓬萊体育館においてファミリー劇団「さむらい」をお迎えし、「～絆～家族愛に満ちた人間賛歌」をテーマにトーク&大衆演劇による人権啓発講演会を開催しました。約400人の来場者を前に、劇団「さむらい」によるトークや歌、大衆演劇が披露され、会場は大いに盛り上がっていました。

また、アンケートも実施し、約61%の方からご協力をいただきました。その中で、「大変良かったです。」「意外な形式の講演会でしたが、皆さん楽しんでおられたようで良い取り組みだと感じました。」「ちょっと違った趣向ですが、面白かったです。お話しもよかったです。」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



劇団「さむらい」は、父で座長の皐月（さつき）竜馬さん、妻の皐月舞さん、娘の皐月歩歩（ぽぽ）さんによる家族3人だけの日本一小さな劇団。バラエティ豊かな演出で日本に根付く大衆演劇を根底に、今の日本人が忘れかけた日本の心を伝えるため各地を回っています。

座長の竜馬さんは「日本全国を旅して回る旅一座にいた頃はいわれもない差別を受けてきた。自分は好きで飛び込んだ世界。つらくても耐えられたが、家族にまで自分のせいでつらい思いをさせているのがつらかった」と振り返った。自分は一座に残り、妻と娘を大阪に返したという。

次第に父親として娘のそばにいてあげたい自分と、好きな芝居を続けたい自分の葛藤の末に、導き出した答えが、「自分の家族で劇団を作って全国を回ればいい」ということに。15年前に劇団を旗揚げした。



竜馬座長は、同劇団の舞台を観てうつ病の患者が見る見る元気になり、「うつ病が治った」と話してくれたとエピソードを紹介し、「人さまに喜んでもらえることができた」と家族で喜んだ。家族の絆も強くなった。人間は横のつながり、家族やお客さんとの絆があつてこそ」と語った。

劇団の3人は吉幾三や美空ひばり、氷川きよしのヒット曲に乗せて踊りや歌を披露。芝居の部では長谷川伸の戯曲「まぶたの母」を演じた。劇中、年配の女性客のすすり泣く声が聞こえて来るほど、来場者も見入っていた。

大衆演劇を披露するファミリー劇団「さむらい」（蓬萊体育館） 平成31年3月17日（日）